

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2010; 1-9	100094に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Clinical Infectious Diseases 2010; 672-678	100180に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2010;15(9): pii=19498	100180に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 16 (10) 2010 March 12	100180に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Emerging Infectious Diseases 16(4): 722-723 April 2010	100180に同じ
183	2010/5/27	100183	ベネシス	トロンピン	トロンピン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	BSE	PLoS ONE 2009; 4: E6175	100094
												インフルエンザ	日本ウイルス学会第57回学術集会 1P074 (p.355)	100094に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97(3): 207-210	100063に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER Guidance for Industry (DRAFT) 2009 November	100003に同じ
												ウエストナイルウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 November	100094に同じ

79 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2009; Available Online 1-3 2009 November 19	100094に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2009; 374: 2128-2128	100003に同じ
												E型肝炎	Emerging Infectious Diseases 2009; 15(5): 704-709	100180に同じ
												黄熱	CDC/MMWR 2009; 59(02): 34-37; 2010 January 22	100003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2010; 1-9	100094に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Clinical Infectious Diseases 2010; 672-678	100180に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2010;15(9): pii=19498	100180に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 16 (10) 2010 March 12	100180に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Emerging Infectious Diseases 16(4): 722-723 April 2010	100180に同じ

80 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
184	2010/5/27	100184	ベネシス	乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	抗D(Rho)抗体含有人免疫グロブリンG	人血液	米國	有効成分	有	無	無	BSE	PLoS ONE 2009; 4: E6175	100094
												インフルエンザ	日本ウイルス学会第57回学術集会 1P074 (p.355)	100094に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sanguinis 2009; 97(3); 207-210	100083に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER Guidance for Industry (DRAFT) 2009 November	100003に同じ
												ウエストナイルウイルス	FDA/CBER Guidance for Industry 2009 November	100094に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biologicals 2009; Available Online 1-3 2009 November 19	100094に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2009; 374; 2128-2128	100003に同じ
												E型肝炎	Emerging Infectious Diseases 2009; 15(5): 704-709	100180に同じ

81 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												黄熱	CDC/MMWR 2009; 59(02): 34-37; 2010 January 22	100003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Haemophilia 2010; 1-9	100094に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Clinical Infectious Diseases 2010; 672-678	100180に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Eurosurveillance 2010; 15(9): pii=19498	100180に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 16 (10) 2010 March 12	100180に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Emerging Infectious Diseases 16(4); 722-723 April 2010	100180に同じ

82 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
185	2010/5/27	100185	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	ウシトランスフェリン	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	<ul style="list-style-type: none"> ・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010) 	<p>・カナダCFIA(Canadian Food Inspection Agency)は2010年にカナダで確認されたBSE (Bovine spongiform encephalopathy)症例についてのリストを公開しており、2010年3月31日現在、2月25日にアルバータ州の肉食用雌牛(71ヵ月)がBSE症例と確認された。</p> <p>・カナダで17例目となったBSEの発見は、利害関係のある業界には2月25日に連絡が成されたが、メディアや一般に向けての公表はなかった。このBSEの新規症例公表に関する取り決めは2009年8月に決定され、一般にはCFIAのホームページ上で情報提供される。新規BSEは、カナダで最もBSE発生の多いアルバータ州内で、6歳のアンガス黒牛についての監視プログラムで検出された。カナダでは2009年には5月に1例、2008年に4例、2007年3例、2006年には5例のBSEが発生している。</p> <p>・カナダで検出された新しい17例目のBSE感染牛は2004年2月の出生であり、(negligible statusへの更新は、BSE例の最新出生年から11年以内は申請できないため)OIE (World Organization for Animal Health)によるrisk statusの更新は2016年へと延期されるであろう。BSE感染牛は屠殺処分され、牛肉取引には影響はなかった。</p>
186	2010/5/27	100186	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	仔ウシ血清	ウシ血液	米国	製造工程	有	無	無	BSE	<ul style="list-style-type: none"> ・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010) 	100185に同じ
187	2010/5/27	100187	ワイス	エタネルセプト(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	不明	製造工程	無	無	無			
188	2010/5/28	100188	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	宿主細胞系は、Donald Wiley(UICSD 大学)及びJames Paulson(UCLA 大学)より入手したウシヒドロコルチゾン産生細胞(DHF)次培養チャイニーズハムスター卵巣細胞である。	有効成分	無	無	無			
189	2010/5/28	100189	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ臓臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
190	2010/5/28	100190	ジェンザイム・ジャパン	ラロニダーゼ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	米国、カナダ、メキシコ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
191	2010/5/28	100191	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン	ウサギ血清	フランス、ベルギー	有効成分	無	無	無			

83 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
192	2010/5/28	100192	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン	胸腺細胞	ヒト胸腺	米国、カナダ、スウェーデン、スロバキア、チェコ、デンマーク、ノルウェー、フィンランド、ポーランド、リトアニア、ベルギー	製造工程	無	無	無			
193	2010/5/28	100193	ジェンザイム・ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウサギ免疫グロブリン	赤血球	ヒト血液	米国	製造工程	無	無	無			
194	2010/5/28	100194	東レ	-	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
195	2010/5/28	100195	東レ	-	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物	無	無	無			
196	2010/5/28	100196	東レ	-	乳糖水和物	ウシ乳	オランダ、ドイツ、ベルギー、ルクセンブルク	添加物	無	無	無			
197	2010/5/28	100197	東レ	-	ウシ血清	ウシ血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
198	2010/5/28	100198	東レ	-	トリプシン	ブタ臓臓抽出物	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
199	2010/5/31	100199	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	PLoSONE 2010; 5 (1): e8795	<p>GBS (Group B Streptococcus)の異種間感染を調査するために、68家族およびその家畜を対象に前向きコホート横断研究を行った結果、ヒトで12.3%(154例中19例)、動物で1.7%(115例中ウシ・ヒツジ各1例)のGBSが検出された。MLST (multilocus sequence typing)を用い、8種類の遺伝子型も同定された。また、GBS定着の認められた夫婦は、家畜である仔牛にもGBS定着が検出され、GBSの型は夫婦の型と一致した。質問書のデータを多変量解析したところ、畜牛との接触はGBS定着を予測する結果となった。GBSは人畜共通感染の可能性があり、公衆衛生措置を必要とする結果が提示された。</p>
200	2010/5/31	100200	萬有製薬	肺炎球菌ワクチン	ヘミン	ウシ	米国及び製造時にBSE問題のない国	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	PLoSONE 2010; 5 (1): e8795	100199に同じ

84 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
201	2010/5/31	100201	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	トリプシン	ブタの臓臓	アメリカ、カナダ	製造工程	有	無	無	インフルエンザ	Bloomberg News (2009 September 29)	オーストラリアおよびニュージーランドの医師は、ブタインフルエンザ感染の最も危険な状態は、感染によって肺に炎症が生じ、液体が貯留し、機能不全になった場合であることを見出した。ウイルスに感染しても命の危機に瀕する疾病に発展するヒトは少数であり、パンデミック株に由来する三大合併症の最大の共通点は、インフルエンザに関連急性呼吸器疾患症候群もしくはFluAidsであると説明した。FluAidsは多臓器不全と関連することもあり、死亡と最も高い関連がある。FluAidsに罹る多くの患者は若者でこれまで健康であり、オーストラリアでは、季節性インフルエンザによる死者の年齢中央値は83歳であるが、新型H1N1ウイルスでは51歳であると報告された。
												新型インフルエンザ(H1N1)	Atlanta health, diet and fitness news (2009 October 29)	米国においてタミフル耐性H1N1ウイルスがヒトヒト間で伝播した初めての症例が報告された。2009年8-7月、ノースカロライナ州でキャンプ中の65人にH1N1感染のため、600人には予防目的でタミフルが処方された。同じキャンピング内の2人の女性は、タミフル服用後に症状が発現し、2ヶ所に変異のあるウイルスが検出され、薬剤耐性であった。このウイルスは、検査した他のヒトには検出されなかった。問題は、1人の女性からもう1人の健康なキャビンメイトにウイルスが伝播したことであり、予防目的で健康者がオセルタミビルを服用することは、耐性獲得のリスク増加に繋がるかもしれない。予防目的の場合、抗ウイルス薬の代わりにH1N1ワクチンが有用であると考えられる。
												新型インフルエンザ(H1N1)	Norwegian Institute of Public Health (2009 November 20)	ノルウェーで新型インフルエンザ陽性であった患者3例に、インフルエンザA(H1N1)変異株が検出された。パンデミックインフルエンザのサーベイランスの一部として患者数人のウイルスを解析した結果であり、これまでもいくつかの変異株が検出されているが、注目した変異株は新型インフルエンザA(H1N1)感染による死亡2例から検出された。この2例はノルウェーで新型インフルエンザ由来で死亡した最初の2例であり、その後、死亡例からの変異株の検出はない。この変異は、気道のより深部に感染し、その結果重篤化を引き起こす可能性がある。ノルウェイ人症例から確定された約70のウイルスを解析し、3例の患者からのみ変異株を検出した。この変異株は集団に流行はしておらず、自然発生した可能性があり、ワクチンや抗ウイルス薬の効果に及ぼす影響はない。

85 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ(H1N1)	BBC News (2009 November 20)	英国では(2009年11月20日現在)、ブタインフルエンザのタミフル耐性株が入院患者の間で広がっている。University Hospital of Walesの重症患者を処置しているユニットで5例の患者が感染した。2例は回復し退院したが、1例は集中治療を受け、2例は病棟で治療中である。当局によると、他の患者への影響はなく、原因究明中である。院内感染はこれまでに3例あるが、タミフル耐性株のヒトヒト感染が初めて確認された症例である。
												インフルエンザ	Canadian Press (2010 January 15) (Yahoo news)	米国CDC(Centers for Disease Control and Prevention)は2010年1月15日に、新しいブタインフルエンザによるヒト感染例を報告した。アイオワ州の小児は2009年9月にブタインフルエンザウイルスH3N2に感染したが、11月まで表面化しなかった。少年は入院も必要とせず、回復した。本症例ではウイルスの広がりはなく、また、ヒトヒト間の感染を疑う根拠はなかった。当該少年が感染した経緯は不明であり、ブタとの接触は知られていない。
												ウイルス感染(ヘンドラウイルス)	Vet. Res. (2010) 41:33 DOI:10.1051/vetres/2010005	ブタに人畜共通感染ウイルスであるヘンドラウイルス(HeV)を接種する実験を行った結果、ブタが宿主となることが示された。実験には2種類のブタが用いられ、HeV接種された全頭に発熱・抑制が発現し、接種後5日には呼吸器徴候や7日には神経学的徴候を示すブタもいた。接種後2-5日では全頭の口・鼻・直腸より、接種後3-5日では眼よりHeV mRNAがReal-timeRT-PCRにより検出された。ウイルスRNAは、感染初期に主に呼吸器およびリンパ系から組織へと分布し、ウイルス分離によりウイルス感染が確認された。また、病的変化およびウイルス抗体による免疫組織学的染色は、ウイルスの組織分布と一致した。ブタはHeV感染に感受性があり、ヒトへの感染を仲介する宿主となる可能性が示唆される。
202	2010/5/31	100202	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ウシ血清	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	その他	BBC News (2009 September 21)	スコットランド全域で若い畜牛が死亡する原因不明の疾病の調査が行われている。これまでに、18農場から25例が1ヶ月未満の動物が罹患する出血性仔牛症候群(Bleeding Calf Syndrome)と確定された。SAC (Scottish Agricultural College)の専門家は、ほとんど未知であるが、これまでに死に至る病気の急増は説明されていないと報告した。罹患した畜牛は発熱が続き、開口部および内部出血に至る。病気の原因は不明であるが、中毒、遺伝的異常および薬物反応が考えられている。イングランドおよびウェールズにおいても同様の例数が特定されているが、乳牛群のみに検出されている。

86 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染症 (PCV-2)	27th Meeting of the European Society of Veterinary Pathology and European College of Veterinary Pathologists, KRAKOW; 09-12; 118; 2009 September	ドイツの42農場から52頭の仔牛に顕著な点状出血および粘膜表面の出血が起きた。検査の結果、顕著な血小板減少、白血球減少および顆粒球減少、骨髄形成不全が認められた。広域スペクトルPCRの結果、感染した仔牛の数頭からブタサーコウイルスs2b型と高い相同性のあるサーコウイルスが検出された。
												炭疽	GMA News.TV 2010 February 28	フィリピンで死亡した2例は感染した動物の肉を摂取し、炭疽菌による死亡と推察されており、また、150人以上が病院に運ばれたとの報告もある。この地域では、昨年、同じ種類の細菌が同じ町の住人数に感染した経緯があり、死亡の原因究明のための診断を行っている。細菌は土壌に10年もしくはそれ以上残存しているため、死亡した動物を摂取しないよう警告しており、また、患者および住民には炭疽病の治療薬が投与された。感染が疑われる地域での家畜動物は、直ちに処分するよう警告がされた。
												ベスノイテア症	FESA Journal 2010; 8(2); 1499	EFSA (European Food Safety Authority: 欧州食品安全機関)は動物の健康および福祉に関する委員会 (Panel on AHAW)にbovine besnoitiosis (ベスノイテア症)に関する科学的見解を報告するよう求めた。最近の疫学的データは、EU加盟国内の畜牛群にbesnoitiosisの症例数増加および地理的広がりを裏付けており、bovine besnoitiosisはEUにおいて新興疾患と考えられる。しかし、bovine besnoitiosisの疫学は流行地域における感染・疾病の発病率・発生率、感染のルートおよび感染・疾病に関連したリスクファクターについて不明のままである。感染は、嚢胞を形成するアピコンプレックス寄生虫Besnoitia besnoitiによって引き起こされ、急性期および慢性期の両方で深刻な有害事象を起こす。委員会はこの疾病について、特に農場主および獣医師に、臨床症状および伝播ルートについて注意喚起する重要性を強調している。欧州での感染地域における疫学調査は、感染動物の重要性および伝播ルートの解明を必要としている。疫学および疾病診断の進歩に関係した未回答の疑問に答えるためには、診断手段が更に発展し標準化される必要がある。besnoitiosisをコントロールするための適切な手段および戦略は有効な疫学的情報を用いて調査される必要がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
203	2010/5/31	100203	日本ポリオ研究所	経口生ポリオワクチン	ラクトアルブミン	ウシ乳	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	感染	BBC News (2009 September 21)	スコットランド全域で若い畜牛が死亡する原因不明の疾病の調査が行われている。これまでに、18農場から25例が一ヶ月齢未満の動物が罹患する出血性仔牛症候群 (Bleeding Calf Syndrome)と確定された。SAC (Scottish Agricultural College)の専門家は、ほとんど未知であるが死に至る病気の急増はこれまで説明されていないと報告した。罹患した畜牛は発熱が続き、開口部および内部出血に至る。病気の原因は不明であるが、中毒、遺伝的異常および薬物反応が考えられている。イングランドおよびウェールズにおいても同様の例数が特定されているが、乳牛群にのみ検出されている。
												感染症 (PCV-2)	27th Meeting of the European Society of Veterinary Pathology and European College of Veterinary Pathologists, KRAKOW; 09-12; 118; 2009 September	1002021と同じ
												炭疽	GMA News.TV 2010 February 28	1002021と同じ
												ベスノイテア症	FESA Journal 2010; 8(2); 1499	1002021と同じ
204	2010/5/31	100204	メルクセロー株式会社	ホルトリビン アルファ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	1)マスタートセルバンク(米国) 2)ワーキングセルバンク(米国)	製造工程	有	無	無	狂犬病	ProMED-mail 20100119.0212	米国Prince George's Countyの小・中学生教育用農場で6週齢の仔牛1頭が狂犬病陽性を示した。この感染した仔牛に接触したヒトは、電話をしてくると当局は依頼している。
												結核	ProMED-mail 20100107.0065	米国Yankton Countyの乳牛群で1頭の3歳牛にウシ結核陽性が確認された。州の獣医師は、追加検査を通して検査が行われており、現在、確定症例は1頭のみであるが、必要な措置を講じていると説明した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												結核	ProMED-mail 20100325.0948	米国Emmet Countyのウシ1頭が、定期ウシ結核サーベイランス検査の結果、ウシ結核陽性を示した。この農場から半径10マイル以内すべての乳牛群は、6か月以内に検査が行われる予定であり、全例が陰性であれば、元のスケジュールに戻される。他に、野生オジロジカではウシ結核は継続的に存在しており、鼻と鼻の接触で感染することから、乳牛の餌が感染したシカの唾液などから汚染される事で、より感染が起こりやすくなる。
												結核	ProMED-mail 20100409.1144	米国Nebraska州北部で1頭の新しいウシ結核症例が検出され、7つの乳牛群が検査下に置かれている。ウシ結核が感染した乳牛からヒトへ感染することはまれであるが、牛肉は適切に処理され、ミルクは殺菌されている限り、食べ物を介したウシ結核の拡散はほとんど危険ではない。2009年6月に2例がRock Countyで検出され、Nebraska当局は22,000頭の乳牛を検査したが、今回の調査はこの時よりは小さいと予想している。
												ブルセラ症	ProMED-mail 20091215.4249	米国Idaho群でブルセラ症陽性の2頭目の動物(乳牛)が確認され、この群内のすべての動物が検査され、ほとんどの結果が出ている。前週、ブルセラ症の疑いのあった1頭目(ワクチン接種されていた15歳ウシ)は、更なる検査の結果、未感染であった。感染源は不明であるが、接触のあったヘラジカもしくはバイソンによると考えられている。乳牛の移動により、ブルセラ症が州を超えて蔓延する事が懸念されており、ブルセラ症フリーのCalifornia州は現状を保ちたいとしている。
												ブルセラ症	ProMED-mail 20100401.1048	米国northwestern Wyomingのヘラジカ群でブルセラ症が増加しており、最近の乳牛のブルセラ症例はヘラジカから広がったと考えられている。ブルセラ症の増加の仮説としては、ヘラジカの密度が高くなったために、ヘラジカ間のブルセラ症感染頻度が高くなった、もしくは、診断検査が、発病率が高くなっている他の病気の交差反応を起こしているという可能性が考えられた。
												ポツリヌス中毒	ProMED-mail 20100404.1084	米国Wisconsin州Rusk Countyで、ある一家のウマ5頭が死亡し、また近くの農家では乳牛が死亡していることについて、獣医師はポツリヌスによる疾病であると報告した。ポツリヌス毒が土壌から検出されており、ウマの飼料である馬草に胞子が生えたと予測されている。ウマがポツリヌスに罹った場所を特定するために、農場由来の馬草が検査されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
205	2010/5/31	100205	メルクセロー株式会社	ホリトロピン アルファ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター細胞株	不明	製造工程	無	無	無			
206	2010/5/31	100206	メルクセロー株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ胎児血清	1)マスターセルバンク(不明) 2)ワーキングセルバンク(米国)	製造工程	有	無	無	狂犬病	ProMED-mail 20091001.3415	2009年9月28日、米国コロラド州El Paso Countyでは1匹のマウンテンライオンと1匹のウシが異常行動を示した後安楽死させられ、検査の結果狂犬病に陽性であったと公表した。このライオンとウシの感染源は不明であるが、公衆衛生局はこれまでに8匹のスカンクが狂犬病に陽性であったことから、スカンクとの関連を推測している。また、2009年9月25日、Calhanで狂犬病のウシが安楽死させられた。ウシの農場主およびウシを診察した獣医師とその助手は予防接種を受けていた。獣医師および当局は飼い主にペットへの予防接種を呼びかけている。
												狂犬病	ProMED-mail 20100119.0212	100204に同じ
												結核	ProMED-mail 20100107.0065	100204に同じ
												結核	ProMED-mail 20100325.0948	100204に同じ
												ブルセラ症	ProMED-mail 20091215.4249	100204に同じ
207	2010/5/31	100207	メルクセロー株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ臓臓	米国	製造工程	有	無	無	新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20091020.3600	パンデミックH1N1インフルエンザウイルスが米国内のブタで初めて確認されたことUSDA (U.S. of Agriculture Department)は発表し、また、食用ブタが感染しても屠殺はせず、ブタ肉製品からこのインフルエンザに罹ることはなく、食べても安全であると報告した。感染が確認されたブタはミネソタ州フェアに出品されており、このフェアに参加した4例の10代若者がH1N1ウイルス陽性と診断された。USDAは、現時点で収集した情報によると、この若者はフェアのブタに接触したことで罹患したのではないと報告した。
												新型インフルエンザ(H1N1)	OIE 2009 November 3	100152に同じ
												新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20091202.4111	米国Virginia州で養殖用七面鳥の群れにパンデミックH1N1が検出され、米国農務省(US Agriculture Department)は米国内における七面鳥では初症例であると報告した。カナダとチリでは報告がある。インフルエンザ様症状のあった作業員から七面鳥に感染した可能性が報告されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												新型インフルエンザ(H1N1)	ProMED-mail 20091228.4372	米国では2か所のNorth Carolina農場におけるブタから採取した検体において、新型H1N12009インフルエンザウイルスが検出された。いずれの農場でも、ヒトからブタにウイルスが感染したと報告され、インフルエンザウイルスに感染後回復したブタ由来の豚肉を食べても安全である。ブタに新型H1N1インフルエンザが確認された州は他に3州あり、また、ネコ、フェレット、七面鳥、イヌおよびチーターにおいてウイルスが検出されているが、すべてヒトからの感染である。
208	2010/5/31	100208	メルクセロー株式会社	ソマトロピン(遺伝子組換え)	G127細胞株(マウス細胞)	マウス細胞	米国	製造工程	無	無	無			
209	2010/5/31	100209	大塚製薬	インターフェロンガンマ-n1	人血清アルブミン	ヒト血液	アメリカ	添加物	有	無	無	狂犬病	CDC/MMWR 2010; 59(7): 185-190; 2010 February 26	2009年米国テキサス州で、17歳の少女が狂犬病の不穏感染と診断された初の症例報告であり、病気の診断に複数回入院したが、集中治療を受けることなく回復した。人畜感染症である狂犬病は、発病後に文書化された証拠のある回復例は世界で6例であり、5例は感染前に予防接種を受けていた。当該患者は、頭痛・痙攣所恐怖症などのため入院し、症状の回復により退院したが、頭痛の再発により他院を受診し、感染性脳炎が疑われ、入院した。頭痛発症の2ヶ月前にゴウモリと接触していた事から、CDC (Centers for Disease Control and Prevention)にて検査を行った結果、血清および脳脊髄液に狂犬病ウイルス抗体陽性が認められたため、狂犬病ワクチンおよびヒト狂犬病免疫グロブリンが投与され、回復・退院した。
210	2010/5/31	100210	大塚製薬	インターフェロンガンマ-n1	インターフェロンガンマ-n1	ヒトミエロモノサイト細胞株	アメリカ	有効成分	無	無	無			
211	2010/5/31	100211	大塚製薬	インターフェロンガンマ-n1	ウシ胎仔血清	ウシ血液	アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
212	2010/5/31	100212	大塚製薬	インターフェロンガンマ-n1	抗ハムスター胸腺細胞ウサギ抗血清	ウサギ血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
213	2010/5/31	100213	大塚製薬	インターフェロンガンマ-n1	抗ハムスター(ヒトミエロモノサイト細胞を皮下で増殖)	ハムスター	日本	製造工程	無	無	無			
214	2010/5/31	100214	大塚製薬	インターフェロンガンマ-n1	抗IFN-γモノクロナール抗	マウスハイブリドーマ	イギリス	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
215	2010/6/2	100215	日本赤十字社	解凍人赤血球濃厚液	解凍人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	B型肝炎	日本肝臓学会大会第13回 2009; A536 (2009 October 14-15)	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									B型肝炎	Transfusion 49(12): 2774-2776; 2009 December	100125に同じ
		100215	日本赤十字社									E型肝炎	XIVth Regional Congress of the ISBT, Asia; Nov 14-18, 2009; Nagoya (International Society of Blood Transfusion Vox Sanguinis 2009; 97, 17) (2A-S02-03).	100125に同じ
		100215	日本赤十字社									Q熱	AABB Weekly Report 2010 March 19	オランダの血液バンクはオランダ国内で予想されるQ熱の2010年アウトブレイクの準備を行っている。疾病対策センターからの声明によると、11月25日現在、2009年のオランダでは6死亡例を含む2,293症例が確認された。オランダ国内で血液バンク業務を担当しているSanquinは、Q熱流行の期間、高リスク地域からの供血液をスクリーニングするNAT(nucleic acid amplification testing)検査を実施予定である。2009年8月にTransfusion誌のsupplementにQ熱, Coxiella burnetiiを含めた病原菌のファクトシートが掲載されたが、AABB's Transfusion Transmitted Diseases Committeelはファクトシート更新のためにオランダからのデータを使用する予定である。
		100215	日本赤十字社									アメリカ・トリパノソーマ症	日本感染症学会第58回東日本地方会 2009; 124 041 (2009 October 30-31)	100151に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
		100215	日本赤十字社									アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion 49 (supplement); 2009 (AABB Annual Meeting and TXPO; 2009 October 24-27)	100150に同じ
		100215	日本赤十字社									新型インフルエンザ (H1N1)	ABC Newsletter #38. 2009 Oct 23; 13-14.	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER Guidance for Industry (DRAFT) 2009 November	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									新型インフルエンザ (H1N1)	Emerging Infectious Diseases 16(4); 722-723 April 2010	100180に同じ
		100215	日本赤十字社									ウイルス感染	Emerging Infectious Disease 15(11):1830-1832 November 2009	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									ウイルス感染	Eurosurveillance 2009;14(50): pii=19446	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									ウイルス性脳炎	Emerging Infectious Disease 15;1671-1672 October 2009	100003に同じ

93 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
		100215	日本赤十字社									ウエストナイルウイルス	Emerging Infectious Disease 15;1668-1670 October 2009	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									チクングニヤウイルス感染	日本感染症学会第58回東日本地方会 2009; 124 041 (2009 October 30-31)	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									デング熱	AABB Annual Meeting and TXPO; 2009 Oct. 24-27; New Orleans (Transfusion 2009; 49 suppl. S66-030G)	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									デング熱	CDC Traveler's Health (2010 April 19)	米国CDC(Centers for Disease Control and Prevention)による海外渡航者向けアウトブレイク情報が更新され、熱帯および亜熱帯地域でのデング熱について情報提供された。2009年初頭以降、デング熱症例数の増加が世界の数地域から報告されており、アフリカ・南太平洋・中央/南アメリカ、カリブ海、及び中東におけるデング熱の状況が報告されている。旅行者へのアドバイスとして、蚊にさされないように防虫剤の使用を薦めており、幼児・新生児への対応および服装について等アドバイスしている。また、症状は発熱・激しい頭痛・目の奥/関節/筋肉痛・紅斑・嘔吐/嘔吐・出血症状などであり、予防のためのワクチンや治療のための特別な治療薬はないため、解熱などの処置が行われ、出血の可能性があるためアスピリンや非ステロイド性抗炎症薬の使用をさげること。また、早期発見・早期治療が死亡のリスクを下げることにつながる。
		100215	日本赤十字社									バベシア症	ABC Newsletter #41; 4-5; 2009 November 13	100150に同じ

94 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
		100215	日本赤十字社									パルボウイルス	Emerging Infectious Diseases 16(3):561-564 March 2010	PARV4(parvovirus 4)は2005年にB型肝炎陽性のIDU(injection drug user)から検出され、また、古い血漿試料から調製されたヒト凝固因子濃縮製剤にも頻りに検出された。健康ブタの血漿試料および血友病患者に使用されたブタ血漿由来第8因子濃縮製剤(1994-2001年調製)からPARV4様ウイルスをスクリーニングした。その結果、血漿試料におけるPARV4様ウイルスの保有率は比較的だったが、ウイルスはブタ血漿由来第8因子の製造中に濃縮されることで検出されたことが報告されている。
		100215	日本赤十字社									HTLV	XIVth Regional Congress of the ISBT, Asia; Nov 14-18, 2009; Nagoya (P-141) (International Society of Blood Transfusion Vox Sanguinis 2009; 97 (suppl.1) 119)	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									HTLV	51st ASH Annual Meeting and Exposition; 2009 Dec 5-8; New Orleans.	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									ウイルス感染	Journal of General of Virology 2009; 90: 2644-2649	090814に同じ
		100215	日本赤十字社									マラリア	CDC/MMWR 2010 March 5	2010年1月12日にマグニチュード7.0の大地震がハイチを襲い、20万人が亡くなり、50万人が家を失った。Plasmodium falciparumによるマラリアがハイチでは流行しており、屋外でマラリアに感染するリスクが広がっている。米国CDC(Centers for Disease Control and Prevention)は11例のP.falciparumによるマラリア確定症例の報告を受け、このうち7例は米国籍であった。本報告では、この11症例の概要およびハイチへ旅行するヒトへの適切な化学療法によるマラリア予防についての推奨が報告されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
		100215	日本赤十字社									レトロウイルス(XMRV)	Science 2009; 326: 585-588	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									レトロウイルス(XMRV)	PLoS ONE 5(1): e8519. doi:10.1371/journal.pone.0008519.	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									異型クロイツフェルト・ヤコブ病	UK Department of Health, SaBTO (Summary of the 8th Meeting); 2009 October 27	100150に同じ
		100215	日本赤十字社									異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20100107.0076 [1] (UK: National CJD Surveillance Unit - monthly statistics as of 5 Jan 2010)	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Lancet 2009; 374: 2128-2128	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									黄熱	CDC/MMWR 2009; 59(02): 34-37; 2010 January 22	100003に同じ
		100215	日本赤十字社									細菌感染	Transfusion 49; 2152-2157; 2009 October	100150に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
		100215	日本赤十字社									細菌感染	FDA CBER Transfusion/Donation Fatalities Annual Summary 2009	2009年度(2008年10月1日~2009年9月30日)にFDAが報告を受けた供血後および受血後の死亡例の年報の概要が公表され、全80死亡例のうち、74例が受血者、6例が供血者に関する報告であった。前者につき、a)44例は輸血に関連した死亡 b)輸血を死因から除くことが出来ない死亡 c)8例は輸血との因果関係がない死亡、と結論が成され、輸血に関連した死亡の第一の原因はTRALI (Transfusion Related Acute Lung Injury)で13例(30%)あり、過去5年間では減少を続けている。2009年度ではHTR(Hemolytic Transfusion Reaction)およびTACO(Transfusion Associated Circulatory Overload)が第二の原因であるが、HTRについては2008年度より減少を示した。なお、ABO不適合によるHTR死亡4例は人為的ミスによるものであった。また、細菌感染による死亡5例中2例は黄色ブドウ球菌(過去5年間の累積では1位のバベンシアに次いで2位)が原因であった。2008年度に5例報告のあった赤血球に関連した細菌感染の報告はなかったが、この5例はすべてバベンシア感染であった。apheresis血小瓶に関連した感染は微増を示したが、2001年度以降減少傾向にある。
		100215	日本赤十字社									鳥インフルエンザ	Virus Genes. 2009 Aug;39(1):76-80.	100003に同じ
216	2010/6/7	100216	化学及血清療法研究所	乾燥ペプシン処理人免疫グロブリン	ペプシン処理人免疫グロブリンG分層	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	CDC FluView 2009-2010 Influenza Season Week 1 ending January 9, 2010	100052に同じ
												チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2010 April 7	100053に同じ
												クラミジア	Infection, Genetics and Evolution 9: 1240-1247, 2009	100097に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
217	2010/6/7	100217	化学及血清療法研究所	乾燥スルホ化人免疫グロブリン	スルホ化人免疫グロブリンG	ヒト血液	1.米国 2~6.日本	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	CDC FluView 2009-2010 Influenza Season Week 1 ending January 9, 2010	100052に同じ
												チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2010 April 7	100053に同じ
												クラミジア	Infection, Genetics and Evolution 9: 1240-1247; 2009	100097に同じ
218	2010/6/7	100218	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒性風しんワクチン 乾燥弱毒性おたふくかぜワクチン	人血清アルブミン	ヒト血液	日本	添加物・製造工程	有	無	無	インフルエンザ	CDC FluView 2009-2010 Influenza Season Week 1 ending January 9, 2010	100052に同じ
												チクングニヤウイルス感染	CDC/Traveler's Health 2010 April 7	100053に同じ
												クラミジア	Infection, Genetics and Evolution 9: 1240-1247; 2009	100097に同じ
219	2010/6/11	100219	ノバルティスファーマ	乳濁細胞培養A型インフルエンザHAワクチン(H1N1株)	乳濁細胞培養A型インフルエンザHAワクチン(H1N1株)	新型インフルエンザウイルスA/カリフォルニア/7/2009(H1N1)株の表面抗原	-	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
220	2010/6/11	100220	ノバルティスファーマ	乳濁細胞培養A型インフルエンザHAワクチン(H1N1株)	トリブシン	ブタ臓臓及びウシ乳	ブタ: 米国及びカナダ ウシ: 米国	製造工程	無	無	無			
221	2010/6/11	100221	ノバルティスファーマ	乳濁細胞培養A型インフルエンザHAワクチン(H1N1株)	トリブシン	ブタ臓臓	デンマーク、アイルランド、イギリス、ベルギー、ドイツ、フランス、スペイン、米国、韓国	製造工程	無	無	無			
222	2010/6/14	100222	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトトランスフェリン	ヒト血液	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMED-mail 20091217.4273	イタリアにおいて、脳髄膜炎と診断された発熱および神経的特徴を伴うびまん性大B細胞性リンパ腫患者に、USUV (Usutu virus)の神経侵襲性感染が認められた最初の報告である。脳脊髄液はUSUV陽性であり、USUVはRT-PCRおよびシーケンスにより血清および血液で検出された。ウイルス遺伝子のプレメンブレンおよびNS5領域の部分シーケンスはUSUV ViennaおよびBudapestに類似している。
												感染	ProMED-mail 20091220.4298 (Google News 2009 December 18)	100158に同じ
												感染	ProMED-mail 20091222.4309 (New York Times /International Herald Tribune 2009 December 19)	100158に同じ
												黄熱	CDC/MMWR 2010; 59(5); 130-132 (February 12)	100158に同じ
223	2010/6/14	100223	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ヒトγグロブリン	ヒト血液	フィンランド、スウェーデン	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	ProMED-mail 20091217.4273	100222に同じ
												感染	ProMED-mail 20091220.4298 (Google News 2009 December 18)	100158に同じ

99 / 138 ページ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED-mail 20091222.4309 (New York Times /International Herald Tribune 2009 December 19)	100158に同じ
												黄熱	CDC/MMWR 2010; 59(5); 130-132 (February 12)	100158に同じ
224	2010/6/14	100224	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010)	100185に同じ
225	2010/6/14	100225	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	有	無	無	BSE	・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010)	100185に同じ
226	2010/6/14	100226	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ペプトン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010)	100185に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
227	2010/6/14	100227	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	加水分解カゼイン	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	BSE	・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010)	100185に同じ
228	2010/6/14	100228	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	ニュージーランド、米国	製造工程	有	無	無	BSE	・CFIA (March 31 2010) ・Meat Trade News Daily (March 16 2010) ・Reuters (March 10 2010)	100185に同じ
229	2010/6/14	100229	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来NSO細胞	マウス骨髄腫	不明	製造工程	無	無	無			
230	2010/6/14	100230	ファイザー	ゲムツズマブオゾガマイシン(遺伝子組換え)	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
231	2010/6/16	100231	日本赤十字社	人赤血球濃厚液	人赤血球濃厚液	人血液	日本	有効成分	有	有	無	B型肝炎	Transfusion 49(12); 2774-2776; 2009 December	100125に同じ
												E型肝炎	XIVth Regional Congress of the ISBT, Asia; Nov 14-18, 2009; Nagoya (International Society of Blood Transfusion Vox Sanguinis 2009; 97, 17) (2A-S02-03).	100125に同じ
												Q熱	AABB Weekly Report 2010 March 19	100215に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												アメリカ・トリパノソーマ症	Transfusion 49 (supplement); 2009 (AABB Annual Meeting and TXPO; 2009 October 24-27)	100150に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	ABC Newsletter #38, 2009 Oct 23: 13-14.	100003に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	FDA/CBER Guidance for Industry (DRAFT) 2009 November	100003に同じ
												新型インフルエンザ (H1N1)	Emerging Infectious Diseases 16(4); 722-723 April 2010	100180に同じ
												ウイルス感染	Emerging Infectious Disease 15(11):1830-1832 November 2009	100003に同じ
												ウイルス感染	Eurosurveillance 2009;14(50); pii=19446	100003に同じ